

同窓会は鳥羽小を応援しています

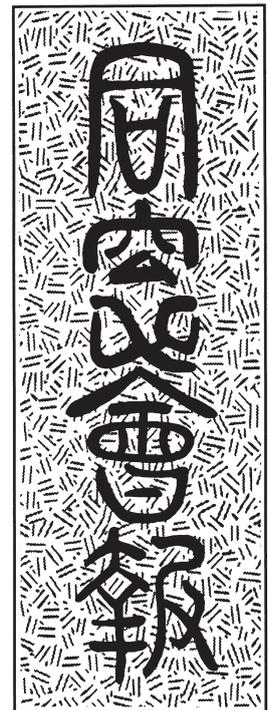


入学式



子育て講演会

鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



平成28年3月
 第25号
 鳥羽小学校同窓会
 印刷：(有)平田印刷





ご挨拶

同窓会長 澤本啓一

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様にはいつも温かいご支援、ご協力をいただき厚く厚くお礼申し上げます。今年も幅広い年代、地域の皆様からご寄稿いただきました。母校と故郷への深い愛情が伝わってきて胸が熱くなりました。本年にありがとうございました。

年に数回、学校行事のご案内をいただき、子供たちの様子を間近で見学させていただきました。校内体育大会(鳥羽リンピック)では六年生を中心に一生懸命に、楽しそうに躍動する子供たちの姿にこちらも胸が踊ります。卒業式では子供たちの涙と溢れる思いに心が洗われます。そして主役である子供たちを、脇役としてしっかり支え、行き届いた指導をされている先生方のご努力も容易に察せられます。本当にいい学校だなあと実感している次第です。

一方、学校を、故郷を取り巻く社会環境は子供たちにとって必ずしも望ましいものではありません。凄まじい速度で社会のIT化が進行し、生活面ではあらゆることが便利になった反面、犯罪や誘惑を助長する多種多様な情報や価値観が全国至る所に混在しています。複雑な社会の中で子供たちを護り育てていくために、学校、家庭、地域の連携が必要不可欠と叫ばれて久しくなります

が、今日その重要性はさらに高まってきたと思われれます。

その連携の具体的な形のひとつが「地域・学校協議会」ではないでしょうか。これは鳥羽小学校区の地域、学識経験者、保護者、学校のそれぞれの代表が一同に会する協議会で年に三回開かれています。学校の教育活動およびその成果と課題を地域全体で共通理解し、その場で出た意見や感想などを今後の指導の参考にしていただくという趣旨です。先生方からの説明をお聞きし資料を見せていただく、子供たちの頑張りとして先頭が下がります。今後とも母校がますます素晴らしい学校となり、同窓会も共に発展していくことを切望してやみません。

終わりにあたり、会員の皆様のよいいっそうのご健勝をご祈念申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

校長 高橋 繁 忠

鳥羽小学校同窓会会員の皆様方におかれましては、日々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。母校の校長を務めさせていただき早三年が過ぎ、その任を終える日が近づいて参りました。日頃より地区内の皆様方とはより、同窓会会員の方々のお力添えには感謝するばかりです。

最近、身の回りで『母校』『同窓』ということについて、しみじみと感じ入るいくつかの出来事を経験いたしました。私事で誠に恐縮ですが、紹介させていただきますと思います。

私は昭和四十二年度この鳥羽小学校を卒業しました。当時の同窓生も還暦を迎えることになり、過日、このあたりで恒例の還暦同窓会伊勢参りに行って参りました。同窓生というのは職場の同僚や地域の仲間とは違ったつながりがあることは皆様も日頃から感じておられるかと存じます。近くに住んでいてときどき顔を合わせることもある人もありますが、何十年ぶりに会った人とも何の気兼ねもなく昔に戻って話ができるのが同窓生というものでしょうか。伊勢の鳥羽市内の宿に宿泊し、宴会の後で部屋に戻って皆で一緒に校歌を歌ったり、小学校時代の思い出や近況報告等を語り合ったりし

て、昔に思いを馳せるひとときを過ごしました。同窓生の話に感極まり、皆が涙ぐむような一幕もありました。翌日は伊勢神宮に参拝して祈禱を受け、帰宅後そのことを報告してから伊勢赤福をかつての恩師に届けました。

もう一つの出来事は今年の正月に、私が若かりし頃にこの学校で担任した今年四十歳になる人たちが同窓会に招いてくれたときのことです。企画してくれた人たちはいろいろと趣向を凝らし、鳥羽小の六年教室の机に座って私の話を聞いてくれるという形を整えてくれました。かつての教え子達を前にして、思わず出てきた言葉は『ごめん。あんまりいい先生ではなかったの』というお詫びの言葉でした。あの頃の私は熱血漢で、唯々『子どもは厳しく育てることが将来のため』のような、今から思えば時代錯誤的な信念を抱いて日々の教育に当たっていたように思い出され、反省することはばりです。その後、全員が体育館に移動し、(体育館にはすでに、幹事さんの手でパイプ椅子が卒業式のときのような隊形に並べられていました)卒業後に教師になった人の伴奏でジャン・ジャン・ジャンと起立礼の台図の後、みんなで校歌を歌いました。その後宴会会場に移動したのです

が、会場には『祝ご退職まであと3ヶ月』の文字とともに私の名前と若かりし頃の写真がカラーで印刷された立派な横断幕が掲げられていて、申し訳ないような複雑な気持ちで一杯になりつつも何とも言えないうれしさがこみ上げてきました。

また、一月末には大鳥羽出身の卒業生が児童玄関前で子ども達に氷の彫塑を披露してくれ、その様子が新聞で紹介されました。新聞記者の誘導尋問に気を利かせて答えてくれたのですが、『定年恩師に感謝込め』のサブタイトルまで付いた新聞記事をご覧ください。た方もあろうかと思えます。

月に一回程度、児童朝礼で子ども達の前で話をすることがあります。一月にはこれらの話を交えつつ『同級生や当時の先生達との結びつきには他にはない特別なものがあるのだよ』といった内容の話

をしました。

間もなく六年生は卒業を迎えます。また下級生の子ども達も何年か後にはまた卒業していく訳ですが、それぞれの小学校時代の思い出を胸にこの学校から巣立っていきます。連綿と続く鳥羽小学校の歴史の中の一コマ一コマが刻まれていくのを目にする毎日ですが、一人ひとりの胸の中には、いろいろな形になって残っていくことでしょう。今日まで私がこのように形で教員生活を勤めさせていたことができたのは、教え子たちや保護者の皆さん、地域の方々のおかげなのだということをおぼろげに感じる毎日です。

最後になりましたが、長らくお世話になりましたことにあらためて感謝いたしますとともに、会員各位のご健勝を祈念してご挨拶に代えさせていただきます。



日本地図がくれたもの

藤内良満

(昭和29年度卒)

校長先生より原稿の依頼を受けてペンを執りましたが、小学生時代となると六十年前のことではほとんど覚えていません。その中でも記憶に残っているのが、恩師である森北良二先生との出会いで、そのことを述

べさせていただきます。小学四年生のとき、病床についていた祖母の余命が危うくなったころ、山田の姓でいた私が正式に藤内家に養子縁組をしました。担任の森北先生が、教室で「今日から山田君

ではなく藤内君に名字が変わりました。」と大きな声で言われ、私自身ハッとしたことを覚えております。ある日森北先生が社会科の授業で「日本で一番遠い県は何県か知っていますか。」と聞かれました。皆はいハイと手を上げ、当てられた私は「沖縄県です。」と言いました。すると先生は沈黙が続いた後、ウルル：目にいっぱい涙をためておられました。もしかして先生は私の父が沖縄で戦死していることを知っておられたのでしょうか。そのあと続いて「日本地図を書いてみなさい。」と言われ、北海道、本州、四国、九州、佐渡、淡路島：と、皆はそんなぐらいだったと思えますが、私は遠く離して左下に小さい島を書きました。あとで、当時の沖縄本島はアメリカの領土であることを知らされ書き直しをしました。そのおかげで日本地図を書くのが面白くなり大変好きになったものです。そのころからでしょうか、ガキ大将であった私が少しずつ並みの少年に戻ったのだらうと思えます。

六年生の終わりが近づき卒業式や謝恩会の準備をしているとき、先生から「君が明日のあいさつをしないさい。」と言われました。訳がわからないままに家に帰って話したら、母と姉から「謝恩会で先生方にお礼のあいさつをするように。」と言われました。またまた頭の中はまっ白：姉が原稿を書いてくれて、私は丸暗記のままですが、原稿を作ってもらってそのまま話し

たことで、心の中はどこかすっきりしない重いものが残りました。

卒業から数年経って気が付いたことですが、あのガキ大将であった私を、さわやかな笑顔で励まし導いてくださったこと。時にはユーモアを交えて「タヌキの歌」を歌って生徒たちを笑わせてくださったこと。あの真面目で誠実なお人柄で、何事にも一所懸命な先生であったことを思い出し、今更ながら感謝、感謝でいっぱいです。

今、私は地域学校協議会の委員を務め五年になります。先生方は教育の基本である「知」（すすんで学び合う）・「徳」（自分も友達も大切に）・「体」（丈夫な体づくり）をベースに懸命に取り組んでくださっております。将来を担っていく子ども達のために、学校・家庭・地域との連携の必要性は言うまでもありません。

私もこの鳥羽谷に生を頂き、育てて頂き七十三歳を超えました。これからも、鳥羽小学校の卒業生であることを誇りに、皆が仲良く磨き合える同窓生であり続けたいと願っております。

(若狭町三生野 在住)





母、鳥羽小学校の思い出と近況

元教員 田村 初枝

渡辺伸子(初枝二女)

(昭和39年度卒)

この度は、貴同窓会報誌の原稿を書き機会をいただき、ありがとうございます。鳥羽小学校区に行くこと、「お母さん、元氣？」と、よく声を掛けていただきます。お氣遣いがとてもありがたいです。母は、平成二十七年九月下旬から、老人ホーム「わらく」に入居させてもらっています。母の心には教員時代ともにごした子どもたちの姿がいつもあり、母に会いに行くこと必ずのように、「昨日も、大勢で遊びに来てくれたんや」と、うれしそうに語り始めます。もちろん妄想ですが、

母は介護度三、認知症があるので、正確でなかったり事実でなかったりしているかもしれませんが、お許しください。話すことを代筆しました。

①鳥羽小学校で思い出すこと

「地元」の学校やから、懐かしさひとしお。教科書に従って勉強しなければならなかったけど、子どもは真面目で、しゃーんとして、一言一句もささず真剣に聞いてくれて、うれしかった。公園へ行つて、かくれんぼやら鬼ごっこをして遊んだしねえ。雪合戦や雪像づくりもしたよ。遊ぶ時も、子どもがしつかりしていたから、楽しく遊べた。広くはないけど、いい公園があつてよかった。保護者の方にも親切にもらえたよ。おうちに寄せてもらったこともあるし

ねー。いい方ばかり。先生方も一丸となつていたよ。和やかやつたな。

鳥羽小学校でのよい思い出があふれ出て、語れる母は幸せです。

②歌を詠んで

*鳥羽小学校を思い出して
行儀もよくて よく学び
子たちの笑顔
忘れることなし

◇保護者方の
教育熱心に支えられ
楽しく過ごせ 心身にしむ
居心地良し

◇居心地良し
あきることなし 教員の
仲良し方々 ありがたき

*町長さんの米寿訪問
(平成二十六年八月二十八日)

◇町長さんの 笑顔嬉し
米寿訪問



*入居間もないとき

(平成二十七年九月、十月)

◇空高く

雲の流れも おだやかに

◇山近し 思い浮かぶは

優し笑顔かな

◇一人居の 淋しさあれど

車数多きは 我を和ませる

*原稿を書き始めた日



鳥羽小学校の思い出

三宅 秀春

(昭和41年度卒)

もうはるか昔のことですが、なぜか忘れていたことが、不思議な事に昨日のように思い出されてきます。僕は、麻生野だったので、二年生までは、分校に通っていました。中西先生が受け持っておられ、今思うと小さな部屋で、何人いたのかまでは覚えていないのですが、一年生と二年生が、仲良く左右に分かれ、交互に授業を受けていたのだと思います。

授業中のことは思い出せません。始業前に、講堂でボールをけり、花瓶をひっくり返してしまい、あわて、親類のうちへ花をもらいにいき、新しい花をいけて置いたら先生にきれいだとほめられました。(本当は、花瓶をひっくり返したのだと言わなかったと：言えなかつたのです。)本校から応援で来られていた速水

(平成二十七年十二月一日)

◇師走月

料理美味しく 和めけり

寄稿の機会をいただいたおかげで、久しぶりに母とゆつくり過ごすことができました。深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

(若狭町成願寺 在住)

先生？ メガネをかけておられたのですが、周りにメガネをかけた人がおられず、メガネをはずした顔が非常に珍しく皆で笑ってしまいました。当時、まだ幼く、大変失礼なことをしたのですが、そんなにめずらしいか?!と笑って受け答えてくださいました。

また校庭のたもの木の幹に空洞があり、遊び場になっていました。しかし、いつの台風か覚えていないのですが、風で折れてしまい、遊び場がなくなつてショックでした。今は、同じ場所に、芽が息吹き、大きく育つております。自然界では、静かに、誰に断ることも無く、次の世代へと、上手に移行していくものですね。

本校へ通うようになって、友達が増えたというよりも、知らない人が

大勢いるという感じで、しばらく溶け込めず、おどおどしていました。分校の少人数から、知らない人ばかりのところは、かなり抵抗がありました。

また高学年になって、何年生か覚えていないのですが、旧校舎が危ないとなり使用禁止になりました。しばらくして、音楽室や、裁縫室があった建物が取り壊し工事中だったのですが（夏休みか？休日だったはずです。）麻生野と、どこかの村？（忘却の彼方に…）とのソフトボールの試合をしていました。そこへ、

森北先生が来られ、球審をしてみられる事になったのです。大いに盛り上がり、工事中の、作業者がいるところに、ボールを打ち込んだのですが、ホームランです。（音楽室の二階部分に当たると、何の部屋だったのか思い出せません。）今だったら、作業中で危ないからと怒鳴られて、やらしてもらえなかったと思うのですが、おおらかでした。（ちなみに、皆で、五、六回は、ぶち込んでいたと思います。誰も怪我がなくて良かったです。）

それから、新校舎建設となり、授業中に、窓の外の杭打ち機を眺めていました。大きな音を出して、コンクリートの杭を打ち込んでいくのです。なぜか不思議な感覚で見つめていました。：杭の先はどうなっているのだろうか。：今日日本では、この杭打ちで大問題になっていますが、当時は、そんな心配は露ほどもありませんでしたね。

ちなみに、タイでは現在でも油圧で打ち込むようなことはまれで、杭

の上に鉄の塊を落として打ち込みます。土壌が柔らかく最初の何本かは、鉄の塊を杭の上に乗せただけで沈んでいきます。聞いた話では、岩盤までは届かず、杭の摩擦で持たせているとのことでした。バンコク近辺では建屋と道路が地盤沈下により落差が出来てしまうのがあたりまえになっていきます。徐々に下がっていくので、タイ人はあまり気にしていません。結果的に何年かで五十cm程度の段差はあちこちで見かけますが、皆さん上手に対応されています。

もし、タイに来られるようなことがありましたら、足元には充分気を付けてください。（歩道のレンガがどこぼこだったり、大きな段差があるところにあります。日本の常識は通用しませんよ。建物の中は平気です。）

横道にそれましたが、鳥羽小学校の話に戻ります。僕の記憶では、六年生の三学期のみ新校舎で勉強できた記憶があります。床が板ではなく、正方形の合板だったような気がします。各自ぬかの袋をおふくろさんに作ってもらい、それで拭き掃除をしていました。ぬかの油で、つやが出てきれいになるのだと。今もきれいでしょいか？きつと皆さんできれいにされていることでしょう。!!!

正月や卒業式など行事毎に、奥本先生が体育館の黒板に赤、白、青のチョークできれいな絵と文言を高い脚立に上られ、描かれていたのを覚えております。それも、一日ではなく二日ぐらいかけておられたように思います。毎回手作りの作品ですよね。今思えば、写真に残しておくべ

きだったと思うのですが。残っていませんよ！残念です。

本校に通うようになって、台風が止み、きれいな青空が出てきたのを覚えております。台風の目の中に、遭遇したのです。当時は台風の目などとは知識も無く、風が止んで台風がいつてしまった程度の感覚でした。今だったらスマホで写真を撮っていたことでしょうね。

タイ人は流行に非常に敏感です。固定電話よりも先に、携帯電話が普及したせいで、従業員のほとんどが高級なスマートフォンを持つています。それも新しいスマホが出ると買うようです。どこにそんなお金があるのか心配するのですが、どうやら長い月賦で買っているみたいです。給料日が二十五日なのですがその日は、全員残業なし一目散に帰ってしまいます。ATM（現金自動支払機）の前には長蛇の列が出来、現金を引きおろしています。

あるとき、従業員の預金通帳を見る機会があったのですが、通帳には0が並んでいました。振込みのあったその日のうちに、全額引きおろしたようです。落語の江戸時代話に出てくるような、宵越しの銭はモタネエ、イの世界があるのだと思われられました。

さていつの間にか、タイの話になっていました。地元を離れあちらこちらを転々としているうちに、二〇〇一年にタイへ着ていました。

私が住んでいる場所はバンコクから、車で約二時間以上離れたプラチンプリという田舎町です。（タイで

は、移動というときと車での移動が中心になります。車で三時間ぐらいの移動は苦にしないようです。また、バイクが日本に比べたくさん走っています。三人乗りや、多いときは四人乗り、子供まで乗り回しています。（：免許はどうなっているの…？）

基本的に道路交通法は、日本とあまり変わらないようです。車は、左側通行になっており運転していても差異は感じません。しかし、皆規則を守っているかといえば、NO『ノー』です。左側通行なのに、左端を逆走してくる車やバイクがあります。これは逆走した方が近道になるためで、法規無視をするのです。というよりも、交通ルールそのものが浸透していないような気がしますが。だって、小学生が制服姿で乗っています。これって無免許?!きつと無免許です。!

会社で、免許証の所持確認をしたところ、約半分の人が無免許で通勤していました。そこで休日に、警察の人が会社に来て半日で講習、免許交付ということがありました。まったく形式的な、免許証だということですが、人の命の大切さはわかっているのですが、その認識の深さ、ルールを守る重要性など、まだまだ先の話なのでしょう。か。

二〇〇一年に来た時は日本食屋さん、たつたの二軒しかなく、コンビニなどもありませんでした。来た頭初は毎晩仕事で帰るのが遅くなり、十二時前後になっていました。もう食堂も開いておらず、屋台のラーメンを食べて寝るような毎日でした。

テレビはあったのですが、見てもタイ語なので見る機会も少なくなっていました。が、あの事件です。そう、九・一一 アメリカのツインタワー崩壊の映像は、一週間後に見た記憶があります。今のようにインターネットが整備されていない浦島太郎状態でした。

それが今、この周辺には、たくさんセブンイレブンが出来ており、おにぎりまでもあるようになりました。道路も整備されて良くなり、毎年進出される企業も増えてきて、徐々に大きくなり見違えるように変貌したのです。

二〇一一年にタイで洪水が起き、アユタヤ方面では水没した企業がたくさんあり、大きな被害が出ました。しかし、その時私がいるプーラチンブリの三〇四という所は、海拔十七m程の高台にあり、わずか十七mですがこれが効いてまったく被害にあわなくて済みました。それが話題となり、その後大手のホンダさん、キャノンさん、東芝さんなど続々、進出されてきました。おかげさまで近年、日本食屋さんも数えたことがありませんが五十軒ぐらいありそうです。行った所は十五軒ぐらいか!? (毎日は行かず、タイ料理の辛いものものを食べています。) タイスキという水炊き風の鍋物があるのですが、タレは辛い、辛い×二、辛い×三のようになっている??日本だったら、好みにあわせ、辛さを自分で調節できるようになっているとありますが、タイでは違います。辛いのが出てきます。私は当然

食べられず、水炊きのスープを取りその中に辛いタレを少し入れて食べます。周りのタイ人の子供も辛いタレで食べているようで、小さな子供時分から辛さには強いようです。

タイ人の味覚は日本人から見ると少し違います。ラーメンのような食べ物があります。唐辛子はもちろん入れますが、他にお酢、砂糖で味調整をして食べます。『砂糖なんて』と最初無視していたのですが、タイ人のスープを少しもらって食べてみると『ケッコウいける!』でした。唐辛子の辛さは、日本の一味の数倍辛いような気がします。よってほんの少ししか入れませんが、最近まったく辛くないとおいしく感じられなくなってきました。タイ人化してきたのかもしれないですね。(タイに来てもう十四年目になってしまいました。)

タイに来る前に日本で英語にコンプレックスを感じていて、英会話の学校に通って一年が過ぎたころでした。(いつか海外で仕事が出来たらいいな!と漠然と考えていたわけです。) そんな折、突然、『タイに行く気がある?』なんて声がかかりました。『もちろん喜んで!』とどこかで聞いたせりふですが、返事していました。もし海外で仕事なら、なんとなく東南アジアがいいと思っていたのです。タイには過去に仕事で三ヶ月ほど来ており、大変やさしく接してもらい、良い印象があったのです。(なんといつても、『微笑みの国』ですものね。) まだ周りは海外駐

在での仕事には、抵抗があった時期でしたが、私自身あまり心配はしませんでした。

しかし来てみて『びっくりポン!』現場で作業が始まり機械の後で見ていたのですが、異常があり『STOP!』『ストップ』と叫んだのですが、業者は、(このおっさん何言ってるんやろ...)と何の反応もなくそのまま作業続行です。その時、我が反応は、『アカン 英語は通じない。タイ語でないと...』どうしよう??

さて、それからです。タイ語の本を買ってきて現場に持ち込み、その単語を指差しながら発音をし、聞いて覚えようと必死でした。ティーニニー(ここ、これ)、ティーヌーン(あれ、あそこ)、メダイマイダイ(ため〓否定)、などなど。日本語の発音にないものがあり、今でも聞き分けられませんが、相手も口元を見ながら何度も発音です。

タイ人も、最初は、相手してくれるのですが、三分もすると面倒くさくなりどこかへいってしまします。今思うと、最初の『ストップ』も、『スタップ』のような気がしません。日本語英語はあまり通用しないようです。ちなみに、タイ人の英語発音も聞き取りづらいです。まして、タイ語文字になると、今でもまるで歯が立ちません。覚える気がない〓覚えられない〓頭が悪い。こちらは、もう断念、放棄しております。

でも今こうして生きていられるのは、やはり周りのタイ人のおかげだと感謝しております。去年のことですが、早朝五時半頃、ゴルフ場への途中パンクをした時のことです。道路に出来た穴に入り込み、タイヤの横が裂けた状態のパンクです。〓修理不可。当然、スベアタイヤに交換すれば良いのですが、生憎そのスベアタイヤが修理してはく交換できません。避難先のガソリンスタンドもまだ開店前でどうしようもなく困り果てていました。そこへ、駐車中の車から人が降りてきて手伝ってくれ始めました。その内、店が開店し始め店員に声をかけましたが、タイヤがだめであると言って立ち去っていききました。その後を引き継いでくれた店員さんが、今度はタイヤをどこかへ持って行き、応急修理をして持ってきてくれたのです。(そのガソリンスタンドでは、パンク修理などはできない所だったので。) それに交換し、とりあえず移動が可能となりました。

しかしまだ六時半頃で、帰ってもしようがないと考え、ゴルフ場へとハンドルを切りました。今度のは、『もうおしまい!』、スベアタイヤはないし、万事休す!!!しようがなく意を決し、とりあえず修理できそうな所まで行くしかない、とパンクしたまま走りました。運良く約一キロ程度走った所にガソリンスタンドがあり、駆け込んだのです。もうタイヤは、ワイヤーが飛び出し悲惨な状態でしたが、それを指差すと店員さんが向こうへ行くと指差すのです。そこには、タイヤ修理が併設されていたので

す。『やったー助かったー!!!』

しかし、まだ終わりませんでした。そこは、トラック専用で、小さなタイヤが常備されています。でも、またどこかへ行つて、タイヤを持ってきてくれ、交換してくれたのです。ホント、言葉も満足に通じませんが人が困っているかわかれれば、皆で出来ることを何とかしてくれる。その日は、『タイ人の熱い人情、思いやり』に触れることが出来、感謝、感謝のナガイ一日でした。

毎年、タイのお正月（ソングラーン休暇）四月の十三〜十五日



鳥羽小学校の思い出と今

竹内 勝治

(昭和43年度卒)

時のたつのは早いもので来年還暦を迎える年になりました。そんな時に、鳥羽小学校同窓会報への寄稿を依頼され、改めて小学校時代の思い出を懐かしく顧みることができました。とはいっても、小学校の頃の記憶は曖昧ではつきりと覚えていません。特に低学年の頃となおさらです。そんな中で記憶を辿ってみると、まず、校歌！向う鏡の山高く…今でも歌えます。私にとつて音楽の原点のような気がします。そして、一番印象に残っているのが六年生の時に担任だった山本尚繁先

の前後）に日本に帰らせてもらっています。帰ると、『お帰り』『ひさしぶりやね〜』『元氣してやっただか〜』などなど、声を掛けてもらえます。子供のころには、一杯悪さをして迷惑をかけたのに、そんなことは微塵もなく…。いつも故郷は何も言わず、人情と、思いやりで、温かく受け入れてくれる場所です。

だから、きつと、永遠に帰って来たい所なのでしょね！
そんな故郷と、鳥羽小学校に乾杯!!!
(タイ プラチンプリ 在住)

生。今は滋賀県の高島市にお住いと思えますが大変お世話になった先生です。その一つの思い出は、算数の時間に問題を早く回答する競争があつて、確か十番目までが入賞ということになつていたと思います。何かあつたのですが勉強のできない私は入賞とは無縁であつたのが、何かの奇跡で一回だけ十番目に入つたことがありました。その時、山本先生から非常に褒められ、当時、そのことが嬉しくて、まさに天にも昇る気持ちだつたことを覚えています。今思うと、そのことがなんでも諦め

ずに努力すれば報われるという自分の座右の銘になつていくように思います。改めて先生に感謝します。

また、今集落でお世話になつていくことと少し関係するのですが、当時は集落の祭りなどの行事で、早退したり休んだりしたことを覚えていきます。特に「祭」で休めるのは何ともいえない楽しみで、授業が早く終わらないかと待ち遠しく、授業が終わると一目散に走って帰つたものです。今、集落の祭りや行事は日曜日に合わせてあることが多いのですが、当時は昔からきめられた日に実施されておりました。学校も地域の行事を尊重し、また寛大に受け入れていただいていたのかも知れません。地域と小学校は本当に密接だつたんだなあと感じます。

そういう思い出の中、今、感じることは、現在、地元で総代（寺、神社）をさせていたいただいているのです。鳥羽地区をはじめ若狭地域は県内でも神事や仏事の行事が多く、また神様や仏様に対する信心が非常に深い地域でもあると思います。仕事場で働いている職員の出身は県内、

県外様々ですが、嶺北や県外の人は嶺南地区の神仏関係の行事の多さと、平日頃から仏壇や、お墓、神社等にお花やお供え物を欠かさない人が多いという状況を見て、「なした、嶺南の人は信心深いんや」とほとんどの人が口を揃えます。よく嶺南の人は、「優しい」といわれますがそんなことも影響しているのかもしれない。さらに『こぼたん』（鳥羽谷）の人は人情が厚い」とも言われます。（無理なお願いをしてもよく相談に乗ってくれようということだそうです）。ちよつと嬉しく、また、誇らしげにも感じます。昨今、人間関係の希薄さや自己中心的な行動が目立ち、昔では考えられなかつた事象や事件が多くみられます。こういった中、ふるさと鳥羽は、自然豊かで人と人との交流も多く本當に住んでいてよかつたと思います。

こんな素晴らしい鳥羽地区の人間形成のスタートである鳥羽小学校、これからも地域と密着した学校であつてほしいと願っています。
(若狭町長江 在住)



アルバムの中のおもい

玉村 哲哉

(昭和58年度卒)

平成二十七年度の鳥羽地区民体育大会の開会式において、森下裕

若狭町長様のご挨拶の中で、海士坂、大蔵寺の晋山結制式をご紹介



頂きました。突然の事で、赤面した私でしたが、町長様の温かいご配慮と、鳥羽地区の皆様から頂いた励ましの拍手に、地域の方にも支えられているという安心感と緊張感を持つことができました。

お陰様をもちまして、平成二十七年十月、海士坂、大蔵寺の十一世住職として、無事に晋山結制式を修行させて頂くことが出来ました。海士坂の皆様は勿論の事、鳥羽地区の皆様に、心より感謝申し上げます。有り難うございました。

この晋山式の為、色々な荷物の整理をしていた時に、今から三十二年前の卒業記念アルバム『友情』が出てきました。そこには、当時のかわいい？自分の姿と、同級生の懐かしい笑顔がいっぱい詰まっています。そして、若かりし頃の今の校長先生、高橋繁応先生の

お姿。実は先生は、大蔵寺の総代（責任役員）でもあり、晋山式にも大変なご尽力を頂きました。高橋先生は、小学校の五・六年の担任の先生で、六年の通知表には「誠実な考えが伺えますが行動は落ち着きに欠けることが」と当時の私をオブラートに包みながらも的確に評価頂いていました。

先生は、二十七年卒業を迎えた息子の校長先生でもあり、ここにもありがたいご縁を感じています。

晋山を終えた私は住職としてはまだまだ未熟な一年生ですので、何年か先にまた恩師の高橋先生に住職としての通知表を頂きたいと思えます。

そのアルバムの最後には「おもいでサイン」というページがあり、同級生一人ひとりのサインと、「将来はいいお坊さんになってね」とか「将来決まったらページががんばれよ」などのメッセージがありました。例えば、初めて仏門に入った「得度式」にも学校から海士坂まで歩いて参加してくれた同級生。本当に有難く、皆にも支えられている事に感謝しています。

ただ無常にも、アルバムの中で、とびつぎりの笑顔を見せてくれた「あんにゃん」（同級生）に今はもう会えない事。彼は私に、色々な助言を直球でしてくれました。彼の家で、今までなかなか会えなかった同級生と会う機会が増えました。お互いを気遣う言葉が増えました。同級生の有難味を確信し、子供達にもそれを伝えていくこと

ができました。

あんにゃん、本当に有難う。

僧侶としてどう生きるか。人のために何ができるのか。そんな思いを常に自分に問う中、人間らしさを貫いて生きた彼にこれからの助言をもらい、共に人生を歩んで



受け入れること、

そして伝えること

邦子 ニコリツク

(平成2年度卒 旧姓 藤内)

私が夫との出会いをきっかけにイスの生活を始めて四年半が経ちます。当初は新しい生活にワクワクしていましたが、実際の生活は思っていたよりもはるかに難しく落ち込むことの連続でした。言葉、習慣、文化が異なるため、言葉が話せないということが、生活や自分の心にこんな支障をきたすのだと実感する日々でした。

まず通い始めた言語学校では、他の生徒（アフリカ系、南米系、欧米系等）は意見を率先して口に出すので、私といえば毎日あつという間にも何も発言しないまま終わってしまうということが殆どでした。しかし筆記テストでは毎回上位。その時に気付いたのは、日本の教育では暗記が多く、ダイアログや人前でプレゼンする機会があまりなかったということです。欧米では自分で決断し、何がしたいのかを考え、なぜそうした

いきたいと思えます。そして、アルバムのおもいに早く応えられるよう、鳥羽地区の方々とのご縁を大切にしながら、恩返しさせて頂く為に、日々精進したいと思えます。(若狭町海士坂 在住)

いのか、どうすればうまくいくのかを自分自身で考え、そして討論する教育を小学生のころからやっているのだそうです。そのせいなのか、大人は政治、世界の社会問題についてとても興味があり、友達同士で討論することも大好きです。

日本とスイス（ヨーロッパ）の文化や習慣の違いについて話せばたくさんありますが、そのうちのひとつ、東京オリンピックのプレゼンの影響もあり、ヨーロッパでも日本の「おもてなし」は素晴らしいと言われています。ではヨーロッパでは「おもてなし」は全くないのか？と考えると、確かにこちらでは飲食店やお店でも日本のようなサービスを受けることはありませんし、どちらかというと店員が冷たく感じる時もあります。店員の笑顔もほとんどありませんし、プレゼン用の包装なんかも大半の店はしてくれません。しかし、

日常生活では妊婦、お年寄り、子供連れにとっても優しさを感じます。バスや路面電車に乗れば周りの人が率先して助ける光景が見られるし、若者も恥ずかしがらずに躊躇なく手伝ってくれます。これは素晴らしいと感じます。良い面、悪い面を含め、そういった文化の違いを味わいつつ海外生活も二年が過ぎ、娘を出産。慣れない国での育児も必死でした。あることがきっかけに自分の気持ちに変化がありました。

それは母がよくないと知らされて、約一ヶ月間娘と離れ一人で帰国していた時でした。毎日がとても辛い日々だったのですが、同じ病棟に偶然にも私の同級生が三人も働いていて、家族全員がそれだけで気持ち温かくなつたし、彼女たちを含め病院の皆さんが一生懸命に看護をしてくれて、私たちの無理もたくさん聞いてもらいました。最後は本当にこの病院に母が来られてよかったですね、と家族とも話していました。地域とのつながりを今更ながら身近に感じることができましたし、頑張っている同級生の姿を見て、私

も今やれることを精一杯やって、一人の母として自分の家族を支えて生きていかなければいけないのだなと改めて思わせてくれたのです。こちらの生活に戻り、気持ちの切り替えには時間が必要でしたが、今は少しずつ自分の心に変化を感じています。娘が通う保育園、家族、友達付き合いなど、自分が受けてきた習慣とは異なる部分もあり、戸惑う事もあります。まずはそれを受け入れ、そして、私が受けてきた教育、習慣、文化を「日本の良さ」として周りに伝えていきたいと思うようになりました。

私の生活の基盤は自分が生まれ育った鳥羽にあります。そこからたくさんエネルギーをもらっていることに感謝し、そして必ず鳥羽の良さを自分の子供たちに伝えてあげたいと思っています。そして、私は今、第二の母国となるスイスで出来ることを自分なりにやり遂げ、悔いのないよう一日一日を大事に過ごしていきたいと思っています。
(スイス ジュネーブ州 在住)



郷里雑感

森下 由美香

(平成12年度卒)

高校卒業を機に、私は住み慣れた大鳥羽を離れ、大学時代は京都で、

就職後は岡山県で独り暮らしをしていました。

その間故郷の土を踏んだ回数、一両の手指で事足りるのではないかと、いうほどわずか。帰ったところで別段何もせず、滞在期間も実に短く、顧みればなんとも薄情な有様だったと思います。岡山にUターンする新幹線の中、どこか心残りを感じるものの、日常に戻ってしまえば仕事の忙しさにそんな気持ちは霧散し、気ままにいられて、まあいいか、と、次からもなおざりな帰省を繰り返してしまうのです。

そのため、ふと郷愁にかられることはあっても、思い出せるのは十年以上前の、まだ幼さが残る同窓生たちの姿と、ところどころ虫食いが出来て色褪せてしまっているような、おぼろげな鳥羽谷の風景でした。

しかし、昨年三月、勤めていた岡山県の図書館を離職し、帰郷することが決まりました。少しばかり後ろ髪を引かれる思いはありましたが、有り難いことにこちらでも図書館で働かせて頂ける運びとなり、明るい門出を迎えることが出来ました。

さて、八年ものあいだ疎遠になつていた故郷です。当時ペーパードライブだった私は、運転の練習もかねて、暇さえあれば随所に車を走らせました。あんな店ができたのか、こんな道になったのか、と、高速道路を幹に、枝葉よろしく広がる変化がとても新鮮に感じ、今昔の間違い探しでもするかのように目を凝らせてそこ

こを回りました。新しい変化を楽しむと同時に、昔と変わらず悠然と鳥羽谷を包む自然や、今も子供たちを育み続ける母校・鳥羽小学校などを見ていると、懐かしさが込み上げてきました。どことなく哀愁を含む、けれどもとても心地よい温かみがふつふつと湧いてきます。

幼いころカニをつかまえた川や、登下校で渡った短い橋。かくれんぼやおにごっこで駆け回った神社に、卓球や縄跳びをして遊んだ公民館。誰かとすれ違うたびにどちらともなく交わされる、世代をこえた明るい挨拶。車ではなく、自分の足で思い出の場所を巡つてみると、多少の変化はあるものの、「そうそう、こうだった」と、当時の様子が鮮明によみがえりました。今まで自分のおぼろげだった鳥羽谷の風景は大きく息を吹き返すし、四季折々の色彩や香りまでもが、ありありと感じられるようでした。

大鳥羽に戻って得たものは、遠い昔の記憶だけではありません。突然の帰郷にもかかわらず、家族は快く迎えてくれ、旧友達はまるでずっと一緒にいたかのように親しく接してくれました。また、新たな職場の方々にも大変恵まれ、身に余る幸せに恐縮しています。過去から今に至るまで、私の人生に関わって下さった皆様には感謝してもしきれません。

(若狭町大鳥羽 在住)



今がある理由

江口 航平
(平成21年度卒)

今、世界中で注目されているスポーツ「ラグビー」を皆さんはご存じだろうか。私は、高校に入学しラグビーと出会い、三年間楯円のボールを追い続けた。

ラグビーは、どんなに悪天候でも練習や試合が中止になることはない。そんな厳しい環境の中、花園という目標に向かい仲間と共にプレーしてきた。ラグビーの一番の醍醐味は、体と体が激しくぶつかり合うところにあると思う。そんなラグビーを通して、身体はもちろん、精神面も強く鍛えることができた。

そして、私が高校二年の時、目標としていた全国大会「花園」に出場することができた。一回戦敗退という悔しい結果になったが、自分の中では一生の思い出となる体験



だった。先輩達が引退した後、私はキャプテンとして部を引き継ぐことになり、チームのまとめ役として全力を尽くした。

ラグビーをする際、役に立ったことがある。それは、小学生と中学生の頃やっていたサッカーだった。私は、近所に住むお兄ちゃんに誘いを受けてスポーツ少年団に入り、毎日夜遅くまでサッカーに打ち込んでいた。昼休みや放課後には、鳥羽小のグラウンドで友達と一緒にサッカーをしていたのをよく覚えている。この時身に付けたキックの技術が、ラグビーでキッカーを務めていた私にとって、一つの武器となった。これらの経験を通して、小学校の頃の努力が今の自分にしっかりと結び付いていると強く感じた。ラグビーだけではなく、小学校、中学校、高校と集団生活を送っていく中で、目標に対して日々コツコツと努力していく大変さや大切さも学んだ。

(若狭町大鳥羽朝霧) 在住



学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1年	15	7	22
2年	11	7	18
3年	12	8	20
4年	7	10	18
5年	8	8	16
6年	8	9	17
計	61	50	111

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	7	5	12
上黒田	6	5	11
麻生野	5	2	7
海土坂	3	4	7
三生野	5	3	8
無悪	1	2	3
三田	3	3	6
小原	5	5	10
南	7	4	11
山内	6	4	10
持田	2	3	5
長江	2	2	4
朝霧	9	8	17
計	61	50	111

【平成27年度 教育目標】

自分の良さを生かし

向上心をもって生きる児童の育成

- ・すすんで学び高め合う子の育成
- ・自分も友だちも大切にする子の育成
- ・丈夫な体づくりに取り組む子の育成

【職員構成】(平成27年4月現在)

職名	校長	教頭	教諭	養護教諭	事務員	支援員	調理員	校務員	計	合計
男	1	1	3	0	0	0	0	0	5	15
女	0	0	5	1	1	1	1	1	10	

【主な行事】

Table of main events from April to March, including school events, sports, and community activities.

平成27年度 鳥羽小学校同窓会決算書

平成28年3月4日現在見込み

<収入の部>

(単位：円)

Income statement table with columns for 27年度予算額, 27年度決算額, 比較増減, and 備考.

<支出の部>

(単位：円)

Expense statement table with columns for 27年度予算額, 27年度決算額, 比較増減, and 備考.

平成27年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

Table of executive members (役員) including roles like 会長, 幹事, 顧問, and 事務局.

Table of council members (役員) listing names and locations.

編集後記

今号も八名の方から郷土愛、母校愛に満ちた玉稿を賜りました。感謝申し上げます。★同窓会報は、鳥羽地区の各ご家庭にのみ配布して...

★「窓」は、かつては虫雪の光を探り入れるためのものでありましたが、今や地域へはもろろんのこと、全国へ、全世界へと瞬時に開放する「窓」となりました。★この「窓」を是非開けて頂きますよう、地区外にお住みの同窓生の皆様にも、各ご家庭からお知らせください。★お願いを申し上げますとともに、同窓生の皆様を祈ります。 (竹)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



鳥羽地区敬老会



交通安全教室



ダンス(土曜授業)



鳥羽リンピック



マラソン大会



器械運動発表会



生き物調査



山内かぶら収穫



味覚授業



秋季遠足



修学旅行



鳥羽っ子学習発表会



1・2年そり遊び



3・4年スケート教室



5・6年スキー教室